

1 本校の教育目標

- 自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 本校の重点事項

○スローガン「互いに認め合い、一人一人が挑戦する十二中生！」

～様々な考えを認め、みんなが安心して挑戦できる環境をみんなで築こう～

- 第2期足立区教育振興ビジョンに基づき、ウェルビーイングの向上を図り、学習の主体者である全ての生徒があらゆる場面で活躍できるように、授業や全教育活動において、教員がファシリテーターとなり見守る。またICT等を効果的に活用し、教科横断的な取組によって、VUCA の時代で活躍できるための課題解決能力等の資質・能力を生徒に身に付けさせる。

3 目指す生徒像、教師像

- <生徒像>①学ぶ意欲と向上心を持ち、生涯にわたって逆境に負けず、前向きに生きようとする生徒
②自己肯定感を高め、地域・社会に貢献できる力と意欲がある生徒
③思いやりの心、命を大切にする心など豊かな心と健やかな身体をもつ生徒

- <教師像>①「分かる授業・魅力ある授業」を目指して研修に努め、授業改善を図っていく教師
②生徒に「考え、学び合い、話し合い、発表する」活動を通して、主体性を育てていく教師
③生徒一人一人の個性や多様性を把握し、豊かな心と体を育てていく教師
④教員間、保護者・地域・関係機関等と連携しながら、生徒の社会的自立に必要な力を育てていく教師

4 本年度の重点的な取組

(1) 基礎学力の定着と向上を目指した「分かる授業・魅力ある授業」の実現

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「足立スタンダード虎の巻」に基づいた授業実践

「めあて」「まとめ・振り返り」を明確にした授業展開の統一化を図り、生徒の実態に応じた単元指導計画・評価計画を作成する。全教員一人1回以上管理職による研究授業・授業観察と年3回以上教員同士の授業観察を設定し、授業改善と授業力向上を目指す。区学力調査の分析と活用により生徒の学力向上を目指す。

イ ICT 機器を活用した分かる授業の実践

生徒が ICT を活用して調べたり、考えを整理したり、他の考えや意見に触れながら、自身の考えを深める授業を実践する(管理職の授業観察で確認)。GIGA スクール推進校として、タブレットやデジタル教科書、AI ドリルの効果的な活用方法を検討・実践し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る。

ウ 個に応じた学習指導・学習機会

朝学習・確認テスト・単元・小テストの年間計画を作成し、基礎・基本の定着を図る。放課後補充学習(JUT)、サマースクール、通所型中1夏季勉強合宿を通して個別学習を充実させ、学習習慣の定着と学力の底上げを図る。

オ 小中連携教育の継続

「足立スタンダード虎の巻」に基づき、教科の枠を超えた共通視点の下に分科会を設け、区学力調査結果を活用した研究授業を実施し、近隣小学校との連携を図る。

(2) 自己肯定感を高め社会に参画する力の育成

ア キャリア教育の推進

キャリア教育「基礎的汎用能力」の視点の下、全教育活動の年間指導計画を作成する。夢デザインシートを活用し、行事や学期末ごとに振り返ることで、生徒に自身の成長を感じさせたり、成果や課題を考えたりすることで次の行動への動機付けにつなげる。

「相手の話を聞き、理解する力」「お互いを認め合える力」「自らの気持ちを素直に言葉にできる力」「物事の課題を発見し、協力して解決しようとする力」の育成のため、キャリア教育支援事業や職場体験を通して、キャリア教育の充実を図る。

イ SWPBS(スクールワイド Positive Behavior Support)の推進

キャリア教育を通して、学級活動と生徒会・委員会活動についてポジティブ行動マトリクス(きまりを守ろう 自分も友達も大切にしよう 自ら行動しよう)を具現化し、主体的な行動を目指す。

ウ 主体的に社会と関わる力の育成

防災教育推進モデル校として、災害を想定した「マイ・タイムライン」の作成により生徒の地域防災意識を高める。地域や社会の一員としての自覚を高めるため、地域清掃ボランティア参加への働き掛けや、外部講師による租税教室を、3年間の系統立てた指導計画の下、実施する。

エ 学校図書館の活用

生徒の読解力の向上及び読書の機会を確保するため、図書館司書を活用し、朝読書や授業を通して学校図書館を積極的に活用する。また、「調べる学習コンクール」に積極的な応募を働き掛ける。

オ 学校と地域の連携・協力支援

日常的に学校を公開し、保護者及び開かれた学校づくり協議会委員による授業診断、学校関係者評価等を活用して、その結果及び改善策を共有し、学校の説明責任を果たす。また、保護者会、学校だより、学年通信、ホームページ、H&S等を通して、積極的に学校の情報を公開する。開かれた学校づくり協議会及びPTAと連携して、校内清掃活動ボランティアを実施する。

(3) 豊かな心と健やかな体の育成

ア 不登校・不適応生徒への未然防止につながる支援体制と環境づくり

特別支援教育コーディネーターを中心に「特別支援教育推進委員会」において、情報共有と支援策について SC・SSW、教育相談関係機関や外部支援事業を活用しながら検討し、不登校・不適応生徒の未然防止と学校復帰、社会的自立の支援を行う。SSRを効果的に活用し、生徒の段階に応じた取組について教職員で共有しながら組織的に多様な学びを支援する。

イ 「足立区いじめ防止基本方針」に基づいた組織的な対応

「いじめ防止対策委員会」を中心に「いじめに関するアンケート」「いじめ個票・一覧表」「WebQU」を活用して情報を共有し、いじめの早期発見・早期対応・早期解決を行う。被害・加害生徒の両家庭と連携しながら、被害生徒に寄り添った指導を行うとともに、加害生徒への指導及び再発防止に向けた支援を行うため、SC・SSW、教育相談関係機関と連携したきめ細やかな対応を実施する。

ウ 特別支援教育の推進

特別支援教育推進委員会を中心に特別支援教室「SAKURA」の生徒理解と指導成果を共有し、ユニバーサルデザインの視点の下、生徒にとって分かりやすい授業展開、教室環境改善を推進する。

エ 人権教育の推進

生徒の個性と多様性を重視した「人権を尊重する学校」を教員自ら模範となってつくる。ルール、マナー、挨拶、5分前行動、TPOに合わせた言動などの凡事徹底と「生徒指導提要」を踏まえ、生徒に自らの行動を決断し、実行する力、すなわち、「自己指導能力」を身に付けさせるとともに、生徒の自尊感情や自己肯定感を高める教育を推進する。

オ 道徳教育の推進

思いやりの心、自己肯定感、規範意識、平和を愛する心を育成する道徳教育を全教育活動の基本として実施する。また、「考え議論する活動」を基に年間指導計画を作成し、指導の工夫・改善を推進していく。保護者や地域にも授業公開する。

カ 健やかな体づくりの推進

給食の取組を活用した食育の推進と保健指導による感染予防、部活動などの体力向上に関わる取組を通して健康への関心を高め、健やかな体づくりを推進していく。

(4) 広い視野と高い指導力をもつ教職員の育成

ア 教員同士、互いに「**尊敬と感謝**」の気持ちを大切にし、チームで対応する風土をつくる。

イ 地方公務員として、サービスの厳正、適切な**人権感覚・言語感覚**をもつ。

ウ **危機管理意識**をもちながら指導にあたる。

エ 教育に関する情報に対する**高いアンテナ**を張る。

オ 全教育活動に対して、**生徒にとって有益な取組**になるよう、見直し・改善を図る。

カ あだちからの日等を活用し、教員自身が心にゆとりをもち、**ワーク・ライフ・バランス**を図りながら、研鑽を積み広い視野を培う。